



# YOROZU 通信 NEWS

Vol. 08

大内 彰

1,300 問答の建築よろず相談

ニュース 発刊； 2022 11 月号

## 大晦日の刺繍

新型コロナウイルスが蔓延した年の大晦日の夜、世間では厄除けにアマビエが流行していましたが私はアイヌの厄除けの文様を百貨で購入した手袋に刺繍で描くことを始めました。自転車通勤をしているので手袋は必需品であり、それに厄除けをつけてようと考えました。百貨で購入した安物なので手袋の裏表はありません。屋外階段を下りながら真っ黒の手袋をはめるのですが暗いので裏か表か、左か右かもなかなか分かりません。その日までは甲の方に赤色と黄色の刺繍糸で小さな印を付けていました。本当は別のものに刺繍をしようと計画してアイヌの刺繍の本を購入して勉強していたのですがなかなか手を付けられずにいました。取りあえず練習がてら手袋に描くことにしました。

刺繍糸はなぜか緩い輪が振られている状態で、ミシン糸や縫い糸のように何かに巻き付けた状態ではありません。初心者私には上手に引き出すことは出来ませんでした。この時は単純に巻いてしまった方が後で使う時にも楽だと考えて棒に巻きだすことにしました。これが失敗の始まりなのですが気付かずに進んでしまいます。手元にあったのは鉛筆位の棒です。けれども糸は予想以上に長く、いくら回転させてもなかなか進みません。棒を片手に持ってその周

りを反対の手でぐるぐる回せば早いのですが、振れてしまうのを避けて棒を回転させました。ひたすら細い棒を回し続けました。大晦日の夜です。当然素面での作業がありません。ちびちびお酒をのみながら2時間くらい経った頃でしょうか。手元からころんと床に落ちてしまいました。予想通りといえばその通り。しかも糸はこんがらがってしまいました。アルコールの影響か面倒になって引っ張ってしまい更に絡んだ糸がきつくなってしまいました。

けれどもここで諦めるわけにはいきません。正月早々家族に笑われるのも癪です。（そう、我が家の初詣では深夜ではないのです。お昼前頃に行くのが習慣になっています）絡んだ糸をほどこきながら気づくことができました。刺繍糸はほんわかしている方が仕上がりが良くなる。逆に伸びた状態で癖がつくと良くないんだろう。だから巻いた状態ではなくたるんだ輪の状態で売っているのではないかと。結局、最初のたるんだ輪の状態に数時間かけて戻すことになってしまいました。

ようやく文様の刺繍にとりかかりました。文様の各ポイントに目印の糸を縫い付けて縫い始めます。参考にしていた文様からは形が変わってしまう事を承知で縫いやすいようにして縫います。東京で原型を知

っている人はいないだろうと高をくくっている部分もありましたが。（北海道でも知る人は少ないかも？）

外周の色は揃えて、内側の糸を左右で変えて区別がつくようにアレンジ。形も左右で違うのはアルコールの影響。出来栄はともかく、とりあえず初詣には間に合い、厄除けの手袋を嬉々としてはめてお参りをする事ができました（やはり、家族はその手袋には引いていました）。

数日後、指の関節の痛みを感じるようになりました。初めは自転車を運転しているときに指に逆向きのかかかのような持ち方をしていたからだろうと考えていましたが、数週間しても治りません。ネットで調べていくうちに思い当たる病気が目に留まりました。「リュウマチ」。進行していくと関節が変形してしまうという病気。かかりやすい位置も症例にピッタリ。この若さでも、若い人でもかかることもある。折角身についてきたタッチタイピングが出来なくなるかもしれない、と整骨院へ急行。

診断結果はただの腱鞘炎とのこと。一安心。悪い方の情報を拾いがちで不安に思うものなんだと実感。よろず建築相談に連絡してくれる人もこんな感じなんだろうな、と腑に落ちました。